

アケボノツツジ咲く石鎚山を歩く



5月15日～16日、土庫病院友の会山歩きクラブの第17回例会登山が行われた。目的地は四国愛媛県の石鎚山(百名山)、伊予富士、瓶ヶ森の3山。

15日朝6時半老健施設「ふれあい」前を出発。バスに乗り込んだのは21名。男性11、女性10、平均年齢65.6歳。

バスは早朝の高速道路を順調に走り、淡路島から鳴門海峡を渡って徳島へ、さらに徳島道、松山道を駆

アケボノツツジと石鎚山 け抜けて伊予西条で一般道へ。朝から雨もよいの空が続いていたが、途中でバスのフロントガラスが水滴で曇り始めた。15日の小雨は覚悟していたとは言え、矢張り雨の登山はうっとうしい。しかし窓外にひろがる新緑の山肌は霧雨にけぶりながらも、幾種類かの花をちりばめて輝き、登山意欲を掻き立てる。

やがて新寒風山トンネルを抜けて高知県の町へ。平成11年完成のこのトンネルは無料で通れる一般国道のものとしては日本最長(5432m)を誇っている。

すぐにバスはきつい傾斜のうねうねとした道を登りはじめ、12:04旧寒風山トンネル南口の駐車場に着いた。予定より4分遅れだが、計画に合わせて車を走らせる運転手さんの技術に感服。

この駐車場は広くて、休憩所もトイレもある。ここで昼食。なおも糠雨が降り続けている。

12:35バスで移動開始。石鎚スカイラインを西に向かう。やがて伊予富士登山口に。雨具をまとめて全員で登山開始。いきなり危なっかしい梯子だが下から見上げているワチガイソウの花に励まされて、梯子をつたい、谷水の流れる岩場を横切って笹原の道を稜線に向かう。霧の中でもミツバツツジの花は鮮やか、

写真下ワチガイソウ





一方アケボノツツジは優しいピンク。両者が笹原の中に点々と咲いて、稜線を飾っている。小さな桜はミネザクラかイシヅチサクラか。これも可愛い。

14時伊予富士頂上着。300名山に挙げられているこの山の眺望は素晴らしいのだが、ガスっているのが残念。

バスに戻り、同じく300名山の瓶（かめ）

アケボノツツジ ケ森登山口に15時過ぎに到着。希望者のみがピストンで登り、17時過ぎ国民宿舎石鎚に到着。

16日

6時半から朝食。快晴。目の前に瓶ヶ森が聳えている。

登山路は四国の分水嶺を縫うようにして石鎚山に向かっている。何よりも嬉しいのは新緑まぶしい眺望。この山系特有の笹原、そこにたつ白骨木、そしてツツジ類やオオカメノキなどの花々。それらが互いに引き立てあいながら、聳え立つ石鎚の岩峰をことさら際立たせている。

そして路傍には可愛い花たち。各種のスマレ、ワチガイソウ、ヤマエンゴサク、ジロボウエンゴサク、ショウジョウバカマ、エンレイソウ、ナツトウダイなどなど。期待していたヤマシャクヤクは蕾を膨らませているだけ。あと一週間もすれば、登山道の左右で花を開くだろう。

9時半、北側からのコース（ロープウェイ～成就コース）との合流点に到着。ほぼ予定通り。あとひと踏ん張り。励ましあって最後の急登を登る。幾人かの男性は二の鎖に挑戦、女性たちも行きたがったが、それを認めるには時間がない。諦めてもらって迂回路をすすむ。10時全員が石鎚山頂に立った。高齢者たちの頑張りに、惜しみない拍手を贈りたい。たいしたものだ。写真を撮りあっている仲間たちがいかにも嬉しそう。

眺望を楽しんだ後、男性たちの天狗岳行きを諦めてもらって下山開始。

石鎚山への道



ナツトウダイ

12時35分。国民宿舎に帰着。

帰路、晴天の下でのスカイラインからの眺めは、全員に歓声をあげさせるに十分だった。

ナツトウダイ（夏燈台・トウダイグサ科トウダイグサ属）

夏の字が付くが、春先に咲く。茎を折ると白乳液が出、これに触れると皮膚がかぶれるので要注意。一方利尿、むくみの薬でもある。